

# 大学運動部活動における動機づけ雰囲気、勝敗に対する態度、

## オーバーコミットメントの関係

— 個人種目と集団種目に着目して —

高山優明（ 兵庫教育大学大学院 ）

### 1. 背景および目的

オーバーコミットメントとは、ストレスフルな状況や場であっても、物事に過度に傾注する危険な個人の行動パターンである。大学運動部活動に所属している学生が抱える問題として、過剰な取り組みによってオーバーコミットメントに陥る可能性があると言われている。しかし、その促進・抑制要因については十分な検討はされていない。

そこで本研究では、大学運動部活動における動機づけ雰囲気、勝敗に対する態度、オーバーコミットメントの関係を個人種目と集団種目に着目し、種目間の差異について検討することを目的とした。

### 2. 研究方法

- 1) 対象者：大学運動部に所属する学生 796 名（集団種目群 328 名，個人種目群 468 名）であった。
- 2) 調査内容：運動部の動機づけ雰囲気測定尺度、勝敗に対する態度を測定する尺度、オーバーコミットメント（以下 OC）測定尺度を使用した。
- 3) 仮説モデル：動機づけ雰囲気を独立変数、勝敗に対する態度を媒介変数、オーバーコミットメントを従属変数とするモデルを設定した。
- 4) 分析方法：個人種目群及び集団種目群の群間でのモデル検討には多母集団同時分析を用いた。

### 3. 結果および考察

モデルの適合度は基準をみたく値（GFI=1.00, AGFT=.99, CFI=1.00, RMSEA=.00）であった。

#### 1) 群間で共通するパス係数について

個人種目群と集団種目群の両群で、競争が勝利志向性に有意な正の影響を与え（ $\beta=.31, .24$ ），その勝利志向性が OC に有意な正の影響（ $\beta=.37, .13$ ）を与えることを示した。また、協調はレク志向性に有意な負の影響（ $\beta=-.31, -.19$ ）を示した。このことから、競争を強調する雰囲気や勝利志向性は OC の促進要因になること、協調はレク志向性を低下させることが示唆される。勝敗を前提とした概念である競争の雰囲気を強く認知することで「勝つこと」でしか高評価をもらえないと感じ、様々な時間を削って取り組んだりする OC 傾向が高まるということが考えられる。

#### 2) 群間で異なるパス係数について

個人種目群では、承認はレク志向性（ $\beta=.25$ ），コーチの能力志向は勝利志向性（ $\beta=.13$ ）に有意な正の影響を示した。また、競争から勝利志向性（個人  $\beta=.31$ ，集団  $\beta=.24, z=2.69$ ），勝利志向性から OC（個人  $\beta=.37$ ，集団  $\beta=.13, z=-2.16$ ）へのパス係数は、個人種目群の値の方が集団種目群よりも有意に高いことが確認された。これは、個人種目では試合の成績が個人の能力の直接的な評価となるため、より部内で競争による優劣が明確になり、勝たなければならないと思うことで OC 傾向が高まるのではないかと考えられる。集団種目群では、競争は OC へ有意な正のパス（ $\beta=.31$ ）を示した。また、コーチの練習支援はレク志向性と OC に有意な正のパス（ $\beta=.14, .13$ ）を示し、レク志向性は OC に有意な負のパス（ $\beta=-.10$ ）を示したが、個人種目群にこれらのパスは示されなかった。そして集団種目群の方が個人種目群よりも、コーチの練習支援からレク志向性（個人  $\beta=-.02$ ，集団  $\beta=.14, z=-2.23$ ）へのパス係数は有意に高く、競争からレク志向性（個人  $\beta=.07$ ，集団  $\beta=-.17, z=3.27$ ）へのパス係数は有意に低かった。特に集団種目では、競争とコーチの練習支援は OC の直接的な促進要因となる一方で、コーチの練習支援はレク志向性を媒介することで抑制要因となることが示唆された。

### 4. 結論

個人・集団の両群において競争する雰囲気が強まると、勝利志向性が高まり、OC 傾向に陥りやすくなることが明らかとなった。その傾向は集団種目群よりも個人種目群の方が強いことが明らかとなった。また集団種目群の特徴としてコーチの練習支援が OC の直接的な促進要因になること、その関係にレク志向性が媒介した場合は抑制要因になることなどが明らかとなった。本結果を踏まえると競争を強調するような雰囲気や部員の勝利志向性を高めるのではなく、部員が互いに認め合い、激励し合える部の雰囲気づくりを意識した指導が求められる。特に個人種目では勝敗によって成績評価しないこと、集団種目では他者との比較ではなく個人レベルの上達や努力が高く評価されることなどが求められる。